

第1回「トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワーク」を開催しました

平成26年3月17日（月）から19日（水）の3日間、第1回「トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワーク」を開催しました。

平成17年度文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」（医療人GP）に、新潟大学医歯学総合病院の「中越地震に学ぶ赤ひげチーム医療人の育成」プログラムが採択され、その中の学部教育の一環として平成18年3月13日～15日に第1回「学部学科を越えた学生によるワークショップ・フィールドワーク」が開催されました。以来、毎年2回、現在までに通算18回行われてきました。今回、口腔ケア・多職種連携に重点をおいた「トータルヘルスケアワークショップ・フィールドワーク」として新たにリニューアルして開催しました。

1日目は、ワークショップを開催しました。まずは3つの班に分かれ、アイスブレイキングとして今まで最も心に残った学習をテーマに、各自絵を描いてもらい、各班内で説明しあった後、代表者が班全員の絵を紹介しました。



午後からは、歯科口腔外科の黒川先生から口腔ケアの重要性について、井口先生からソーシャルキャピタルについて、ミニレクチャーがあり、その後、翌日のフィールドワークについて、一般目標と行動目標をたててもらいました。

次に「超高齢社会」について、KJ法を用いて問題点の抽出を行いました。各班とも、老老介護、ケアの担い手不足など、様々な視点から問題点を抽出していました。

2日目は、村上市の肴町病院・三面の里、阿賀町の県立津川病院・東蒲の里、上越市柿崎区のよねやまの里、上越市牧区の牧診療所・沖見の里の4地区に分かれ、口腔ケアをテーマにフィールドワークを行いました。各班とも口腔ケアについてのレクチャーを受けたり、嚥下体操を一緒に実演したり、食事介助を間近で見学させていただいたり、有意義な体験実習を行うことができました。



3日目は、ワークショップとして、前日のフィールドワークもふまえて超高齢社会の最優先課題について二次元展開法を用いて抽出し、その最優先課題に対する対応策を検討してもらいました。各班からは、在宅医療、介護、それぞれ異なる最優先課題が抽出され、様々な対応策が出されました。

最後に3日間の感想をレポートにまとめてもらった後、全員で感想を発表しました。そして参加した学生に修了証が渡され、終了しました。

参加した各医療系学生のモチベーションは高く、非常に活気のある密度の濃いワークショップ、フィールドワークとなりました。

今回の詳細は報告書にして、当ホームページにも掲載する予定です。

